

「障がい者支援サポーター育成研修」を受けて、

**知ることが大切！ 知らないことに気付くことも大切！
私たちは研修で一步踏み出したと思う！ 次は…**

感想文の紹介 <感じたこと 考えたこと>

1年次生の感想より

○福祉の授業を受けて分かっているつもりでしたが、改めて障がいにはいろいろな障がいがあり、それぞれ特性が違うので、支援や配慮の方法も変わってくる。そういう障がいについて、正しいことをきちんと知ることが重要だとわかりました。

○テレビでブラインドサッカーというスポーツを見ました。僕たちがしているサッカーと変わらず、とても迫力がありました。「障がいがあるから」という先入観を持ってはいけない。今日学んだ中で、僕が一番大切だと思ったことです。

○私たちは当たり前のように目で見て耳で聞く生活をしています。それができない人たちがどのようなことで困っているのか、私たちがどう手助けをしていけるかなど、今日の短い時間の中で、たくさん考えることができました。研修の中で、「急に肩をたたいて呼び止めるのはよくない」という話がありました。私は日常生活の中で、この動作をよくしています。自分は何気なくやっても、たまに相手を驚かせてしまうことがあります。自分が親切で取ったつもりでの行動も、相手を不安に思わせることがあるということを知り、今後はなるべく小さなことにも気をつかって、人に接していこうと思いました。

○研修を通じて、「思いやり」の大切さを改めて考えさせられた。

○外出中にヘルプカードやヘルプマークを見かけたら、研修を思い出して手助けしたいと思います。

○今回、本当に学べるが多かったと思います。障がいがある人と接するときには、少しの配慮と、少しの優しさが大切だということを実感しました。

2年次生の感想より

○今日は障がいについて多くのことを知ることができました。でも、私たちはまだまだ障がい者への理解が足りないと思いました。私は少し前から手話を勉強しています。誰かの役に立てないかなという思いからです。まだまだ話せるほどの知識はないけど、継続して、いつかは役に立てるようにしたいと思います。誰かの役に立つためには、自分に何ができるかをしっかりと考え、知識を増やし、行動していくことからだと思います。私も、手話だけでなく、他にどんなことが自分にできるのか考え、障がいのある人のために役に立とうと思います。

○自分にできることは何かを考えて行動し、役に立ちたいと思いました。点字の上、スロープの上、身体障がい者等用駐車場に自転車を置かないなど、当たり前のことを当たり前でできる常識ある大人になりたいです。

○手話は、ジェスチャーの一種であること。手話を知らなくても、伝えようと努力することが大切だと思いました。

○私は、特に何も考えず軽い気持ちで研修を受けました。でも、今日研修を受けたことで、障がいのある人、特に聴覚障がいのある人に対する考え方や見方が大きく変わりました。手話を知らない私でも、講師の方の体の動きや口の動きで話の内容を理解することができ、聴覚障がいのある人とのコミュニケーションは苦手だと思っていた私の気持ちは、どこかに飛んでいきました。手話がわからなくても、身振り手振りで伝わることを学んだ私は、嬉しい気持ちになりました。

○障がいによっては、外見だけではわからない場合がある。私は実際、電車に乗っているときに、体もケガしていないし、年寄りにも見えない人が優先席に座っているのを見たことがあります。もしかしたら、見た目ではわからない障がいを持っている人だったのかもしれない、と思いました。車いすを使っている人や困っている人を見て見ぬふりをせず、自分から手助けができるようにしたいと思いました。

○障がいのある人をサポートする際にどのようなことに気を付けるべきか、今までにいろいろな授業を通して学んできていると思っていましたが、自分で知っているつもりになっているだけで、まだまだ知らないことがいっぱいあるということに気付かされました。そして、知っていても私は実践できていないと感じたので、実践できるようにしていかなければならないと思いました。

○目が見えること耳が聞こえることに感謝し、今日もらった冊子にしっかり目を通し、さらに関心を高めて勉強したいです。

○障がいのある人の気持ちになって考えること、相手に対して分かりやすく表現することが大切だと感じました。

○私たちのサポートは、障がいのある人にとって本当に大切だということが理解できました。

○もし自分に障がいがあるとしたら、と考えさせられました。

3年次生の感想より

○今回、特に私が考えたのは、外見ではわかりにくい障がいのことです。今の社会では、教育や講習会などで障がい者をサポートする方法が広まりつつあると思います。でも、多くの方は目で見て認識できることには理解があっても、そうでない場合には、まだまだ気付いていないように感じます。大切なのは、相手の立場になって考えること、そして様々な障がいについて幅広く考えることだと思います。自分の見える範囲、知っている範囲で行動するだけでは、全ての人をサポートすることは困難です。今日のような研修で学び、自分のできることの範囲を広げたいと思いました。

○私は、手話に対して難しいという印象を持っていました。でも、手話という難しい概念にとらわれず、私たちが普段やっているジェスチャーでもよいし、それで伝わるんだということがわかり、印象が大きく変わりました。

○手話での講話は、聴覚障がい者の本音や私たちに気を付けてほしいことなど、たくさんのためになる内容で、私は話に引き込まれて体が前のめりになるほどでした。家に帰って家族に話しをすると、人として誰かの役に立つことは素敵なことだから、そうできるようにと家族全員で改めて考えることができました。

○今日感じたことは、手話は体全体で表すということです。石川さんは体を大きく使って私たちにいろいろなことを伝えてくれようとしてくださいました。私はそれをしっかり受け取ろうと思うことができました。

「障がい者支援サポーター育成研修」を受けて、

- 今回の研修で、障がいについてより理解を深められたと思いました。そして、難しい知識はなくても、相手のことを考えて思いやりを持って行動すること、手話がわからなくても、こちらに伝えたいという気持ちがあってジェスチャーをすれば、しっかり読み取ってくださり、気持ちは伝わると実感しました。今後、自分のできることをやってみようと思いました。気持ちが通じ合えれば、嬉しいだろうなと感じた時間でした。
- 私は1年生の頃、心のどこかで「障がいは自分とは無縁だ」「障がいのある人はかわいそう」と思っていました。でも、人権委員の活動で松山聾学校を訪問して交流したときに、その自分の偏見に気付く恥ずかしく思ったことがあります。だから、今日のような学びの機会は、本当に大切でありがたい時間だと思いました。
- 友達の中には、関係ないと思っていたり、サポートはできないと思っていた人もいましたが、小さなことでも私たちにできることを知ることができました。
- いただいたテキストを何度も読み返そうと思います。
- 平気で障がい者専用の座席や駐車場を使う人がいます。それは、私たち自身が、障がいのある人から目を背けていると思います。
- 私たちは、もっと障がいについて正しい知識や接し方を知るべきで、相手の立場になって考えるべきであると思いました。
- 今回、ヘルプカードやヘルプマークの存在を知ることができた。今後は、その仕組み、意味、どの場面で使用されているかなどを理解していくことが大切だと思った。
- いただいたテキストに書いてあることも活用しながら、生活したいと思いました。

担当:302・303 人権委員 ～ 次回のハートフルデーは 1月23日(水)です ～

<お願い> 今回の放送を聞いた感想、この資料とテキストを持ち帰って家で話したことを書いて、お寄せください。

..... 切り取り線

ハートフルデー (H30.12.12) NO.126 について

(「障がい者支援サポーター育成研修」を受けて、) () 年次 生徒 or 保護者
どちらか○で囲んでください。

イエローリボン運動に参加しよう！！

<イエローリボン運動とは>

人々の意識を変え、まちを変え、障がいのある人もない人も共に暮らし、全ての人に参加できる社会をみんなで作っていく取り組みです。

<イエローリボンとは>

2006年に国連で採択された「障害者権利条約」の普及を信じて、誰もが住みやすい社会を実現するためのシンボルマークです。全国の13の障害者団体が構成する「日本障害フォーラム（JDF）」が普及活動を行っています。

私たちがいただいた、イエローリボンバッジの他に、イエローリストバンド、イエローリフレクターキーチェーン、イエローリボンマグネットステッカーというものもあります。



<「障害者権利条約」とは>

障がいのある人が人としての尊厳を尊重され、社会生活のあらゆる面で権利が保障されることを国際的に約束したものです。どんなに重い障害があっても、住みなれたまちで、心ゆたかにその人らしく暮らし、学び、働くことができる社会をめざしています。イエローリボンとは、そのような社会を、すべての人と共につくっていく取り組みです。

違いを尊重し、全ての人に参加できる社会へ

私たちも、イエローリボンバッジを付けて、この運動に参加しましょう！

